

# 萩ジオパーク

## 推進協議会だより

vol.61

萩ジオパーク推進協議会

| 2020年3月30日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hagigeo/>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject/>

## 新看板、パンフレット続々登場！

萩ジオパークをもっと感じていただくための新しい解説看板やパンフレットができました。笠山椿群生林には新たな解説看板とパンフレット、龍が通った道には猿屋の瀧と龍鱗郷にそれぞれ解説看板ができ、美祢市と萩市の市境の看板もジオパーク仕様になりました。



笠山椿群生林の入り口に設置された大看板



笠山椿群生林の解説小看板



猿屋の瀧に新設された解説看板

笠山椿群生林には、『萩ジオパーク・つながり発見の広場』と題して地図を記した大看板を2ヶ所、景色の解説を記した小看板を7ヶ所に設置し、それらと連動したパンフレットも無料配布しています。

笠山の溶岩や、その上で営まれている動植物と人々の暮らしから、大地と人のつながりを発見できる空間になりました。ジオガイドツアーに参加するのが一番ですが、案内が無くても楽しめるようになりました。

龍が通った道には、るーらるSHOP315や壘ヶ淵に案内・解説看板がありましたが、今回新たに、猿屋の瀧と龍鱗郷にも完成しました。目の前の景色の着眼点と、その解説がされており、阿武町福賀の伊良尾山から萩市弥富、そして小川へと流れていった溶岩をたどる旅が、より一層楽しんでいただけるようになりました。



デザインが新しくなった美祢ー萩市境の看板

県道32号線の美祢市と萩市の市境看板は、Mine秋吉台ジオパークと萩ジオパークの境界でもあることから、ジオパークをたどる旅をテーマにした新たな板面に貼り替わりました。美祢から萩に向かう面は「サンゴの大地からマグマの大地へ」、反対の面は「マグマの大地からサンゴの大地へ」と書かれています。大地が違うことで、それに支えられた景色や文化もまた異なる。そんな新しい視点で楽しんでいただくきっかけになると思います。これから気候の良い季節です。野外の絶景を楽しんでいただきながら、解説看板を見て、景色の奥のさらに深い物語に触れてみるのはいかがでしょうか。

# 令和元年度 ジオパーク活動補助金交付団体の活動報告

萩市では、萩市等が有する大地の遺産の保護、保全及び活用を目的としたジオパーク活動を行う市民活動団体等に対し、補助金を交付しています（53号参照）。10月に1団体追加決定し、今年度の補助金交付団体は5団体でした。活動概要を報告します。

## ① 萩ジオツーリズム協会

大地と人のつながりをもっと上手に伝えられるようになろう  
みんなで成長！ジオガイドフォローアップ講座開催事業（60号参照）

## ② 萩のジオパークってなんじゃろう会

平蕨台で育った野菜はなぜ美味しいの？一大地の上で生活する仲間へ呼びかけるー（56号参照）

## ③ 萩パエリヤ巡礼実行委員会

萩の大地と人のつながりをパエリヤで楽しもう！『萩パエリヤ巡礼』情報発信事業

萩市内（福栄、三見、見島、明木、須佐）で実施した「萩パエリヤ巡礼」の取組みについて

① 各地域で作成したパエリヤのレシピ付きビジュアルブック『萩出汁の旅』の作成

② イベント時に撮影した映像を編集し、Youtubeで公開

YouTubeチャンネル【岡本シェフのパエリヤ巡礼】

<https://www.youtube.com/channel/UC17VqGj0q3G2oJA77StAKeg/>



## ④ 竹紙キャラバン

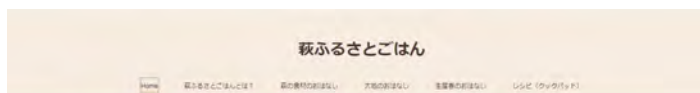
『竹紙』キャラバン 竹紙をテーマに、大地と人の暮らしがつながることを伝える



萩市内の紫福地区や弥富地区で竹を伐採し、取り出した繊維から紙を漉（す）く『竹紙』の普及活動。「萩ふるさとまつり」など市内イベント出展のほか、萩に修学旅行で訪れた関東圏の高校生や美祢市の児童など市内外の方を対象に、竹紙漉きなどの体験を提供した。これにより、萩の「竹」を題材に大地と人のつながりを参加者に伝え、「竹」と大地と人の暮らしに思いをはせるきっかけとなった。

## ⑤ NPO萩元気食の会

萩ふるさとごはんプロジェクト「萩の大地から生まれた、萩の郷土料理」のガイドブックデータ制作および普及イベント実施事業



① 萩ふるさとごはんガイドブック（データ）の作成

② 12月21日 クッキングイベント「Winter Cooking」の実施

③ あなたの#萩ふるさとごはん募集

④ 萩ふるさとごはんウェブサイトの作成・公開

<https://hagifurusatogohan.localinfo.jp/>



# ジオ・ カメラさんぽ

特別編

## 写真で振り返る萩ジオパーク2019

今年度も萩ジオパークでは様々な活動が繰り広げられました。今回、それらのほんの少しですが、写真で振り返ってみましょう。



2019.7.15

今年から始まった「大地の遊び人養成講座」  
記念すべき第1回はシーカヤック



2019. 夏

須佐ホルンフェルスのジオガイドツアーがスタート



2019. 夏

笠山ジオの会による磯たんけん  
市外からの親子が溶岩の岩場で生き物さがし



2019.8.24

夜の火山たんけんは最高にスリリング



2019.10.1

阿東のさくら小にて理科の授業をジオパークで  
初めて学習指導要領に基づく地学授業をジオパーク  
専門員が実施



2019.10.31-11.5

全国大会は九州おおいたへ



2019.12.15

地球を食べる食堂は、徳佐のりんごをテーマに

みなさんからの素敵な投稿写真をお待ちしています。

Mail : [geo@city.hagi.lg.jp](mailto:geo@city.hagi.lg.jp)

日本海に浮かぶ萩の独特な島々を眺めながらゆったりとカフェ

## 笠山山頂展望台のカフェオーナーになりませんか？

この度、萩市椿東の笠山山頂にある展望台を萩ジオパークが整備します。その一つとして、展望台2階部をカフェにリニューアルします。

笠山山頂展望台は、約30年前に建てられた施設で、日本海とそこに浮かぶ島々の美しい景観が楽しめる場所。そして、萩ジオパークの主要な見どころになっていることは、皆さんご存知ですよ。

今回、上層の3階部では、その眺望はさることながら、小さな火山・笠山を巡り楽しむための情報発信空間およびジオツーリズムの拠点として、下層の2階部では、来訪者がほっと一息つける癒しのカフェ空間として活用したいと思っています。萩ジオパークの新しい拠点として、展望台でカフェを経営していただけるオーナーを広く募集します。詳しくは萩市公式ホームページをご覧ください。



## 出張レポート（専門員・白井孝明） - 四国<sup>せいよ</sup>西予ジオパーク -

2月26日、四国西予ジオパーク（愛媛県西予市）からのご依頼で、「ジオパークと観光」をテーマに講演をしました。主に西予市民の方々が対象で、ジオガイドをはじめとしたジオパーク関係者から、これまで全く関わりのなかった方まで26名が参加されました。

そもそもジオパークとは何なのか、という話から、ジオパークで行う観光とはどういうものか、という話題を、萩ジオパークの取組みを例に出しながらお話ししました。「ジオパークが何なのか、今回でスッキリできた」とか、「萩ジオパークに行きたくなった」、「これを機に西予の活動をみんなで考えたい」といった感想が聞かれ、今後の活動のためにもお役に立てたようです。



講演会の様子

## 4月の予定 - Information -

○geoとも（萩ジオ友の会）定例会「ジオ探訪」 4月18日（土）9：30～16：00 集合場所：道の駅「うり坊の郷 katamata」 内容：阿武火山群から青野火山群へ～阿東嘉年の火山、阿武川源流、徳佐盆地、船平山、津和野、青野山～ 参加費：実費 主催：geoとも 問合せ：geoとも西嶋（0838-26-6123）

# わっきー教授のつづやき ～ひとこと解説

今回は、半田くんと笠山ちゃんが、阿武町のモドロ岬に行きました。モドロ岬は、阿武町の清ヶ浜から3kmほど北西に行った所にある、細長く海に突き出た岬です。標高416mの遠岳山の真北に当たります。四コマ漫画にもありますように、陸路で行くことができないので、舟で行くしかたどり着くことができません。簡単には見に行くことができないのは残念なのですが、苦労してたどり着いて見ることができると、その不思議な様子に圧倒されます。



～ じっとしてたら、石になっちゃったよ…。そんな感じです。

マグマは、地球内部でのでき方によって、いろいろなタイプがあり、それぞれ成分が違ってきます。普通は、1種類のマグマがゆっくり冷えて、成分が均質な石ができます。石英が多い花こう岩（みかげ石）などがその代表です。ところが、モドロ岬の付近では、かつて、2種類のマグマが近くにありました。1つは、石英が多くて冷えると白っぽい石になるようなマグマ（白いマグマ）、もう1つは、石英が少なくて冷えると黒っぽい石になるようなマグマ（黒いマグマ）です。このマグマは、それぞれ静かに冷えてくれれば、白っぽい石と黒っぽい石が別々にできるだけで、「こっちには白い石があったあ…あっちには黒い石があるぞ…」てな話で終わったのですが、そうはならなかった。そう、なぜか、水玉模様になっちゃったんです。



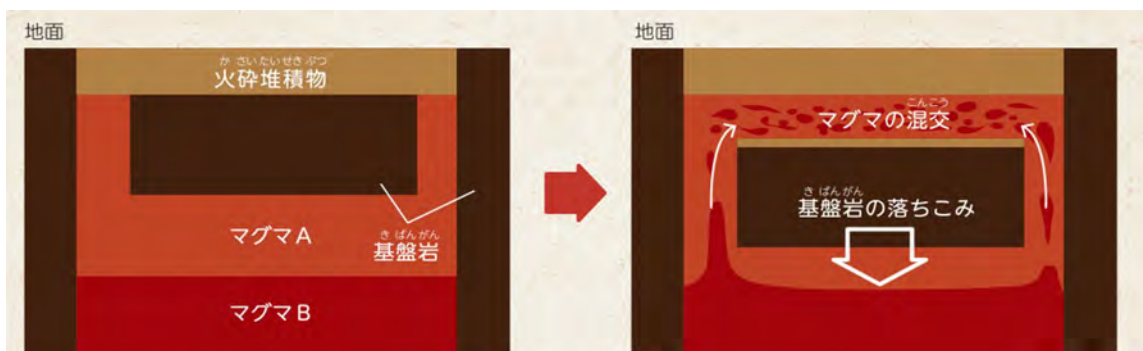
シーカヤックでモドロ岬にいくと、水玉模様に直接タッチングができる

ここで観察できるのは、岬を作っている石に浮かぶ不思議な模様です。そこには、淡い色の下地に暗い色が点々としています。いわゆる水玉模様ですね。いつも石を見慣れているわっきー教授でも、水玉模様がある石なんてほとんど見たことがありません。特別なことが起きないとできない石なんです！この石は、深成岩というマグマが固まった石です。私たちが目にする火山の地下には、火山が噴火する元になるマグマが隠れています。岩石が熱で溶けてできたドロドロの液体です。これが、地表でドドンと噴火すると、溶岩や火山灰になっていきます。でも、このマグマはすべてが噴火して外に出ちゃうのじゃなくて、大半は地下でしばらくドロドロしていて、噴火し損なうと、ゆっくりゆっくり冷えて石になっていきます。「あああ、外に遊びに行けばよかった～、地下で

地下の深い所でご近所さんだった「白いマグマ」と「黒いマグマ」が、冷えて岩石になる前に、合流して、混じりあってしまいました。難しい言葉で、「マグマ混交」と言います。この2種類のマグマは、成分が違って、完全には混じりあうことができませんでした。完全に混じり合うと白と黒ですから、灰色になっちゃいますよね。そうはならなかったのです。成分や状態が異なっていたため、黒いマグマは水玉のようになり、白いマグマの中に取り込まれていきました（下図参照）。

同じようなことは、ドレッシングでもおきます。ドレッシングは、水分と油分のできていて、水と油は混じりあわないので、ドレッシングの瓶を振ると、油の部分が丸い粒々になって、水っぽい液体のなかに浮かんでいきます。ドレッシングで起きたことと同じことが「白いマグマ」と「黒いマグマ」で起きたのが、モドロ岬の水玉模様ができた原因です。長門市の青海島でも、形は少し違いますが、同じような様子が観察できます。

岬モドロくんは、美伶小学校サッカー部のスターです。モドロリフティングなど、最高の技術を持っています。リフティングが最高3回までのわっきー教授とは大違いです（泣）。



巨大火山噴火後の地下陥没モデル



# はん だ がんばれ! 半田くん



原作：わっきー教授 画：白玉だんご

## 第24話 おれ、岬モドロ。



## 第25話 不思議な模様はドレッシング?

